

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

私たちが体験した3月11日14時46分に発生した東北関東大震災は、岩手県から茨城県までの沿岸に、津波による未曾有の大災害を引き起こしました。それに加えて私たちを苦しめているのは、福島第一原子力発電所事故からくる高濃度の放射線量による脅威という人災です。

このような時に、皆さんは、中学生になる・高校生になるという人生の大きな節目に立っています。皆さんはこの時を生涯忘れることができないことでしょう。

私たちの人生に起こることには、それぞれの人にとって、必ず何か意味があると言われますが、今回のような大きな惨事の意味を理解する事は困難ですし、認めることもが出来ません。しかし、「何故ですか？どんな意味があるのですか？何をすることを求めているのですか」と問い続ける事は出来ます。この問いを発している中で、必ずあなたへ答えが返ってくるでしょう。

この震災で、今まで私たちが享有していた生活は、一瞬のうちに崩れてしまいました。3.11の大震災を経験した私たちの眼差しは、前と同じ風景を見ても、同じには見えません。

皆さんがよく知っている「鉄腕アトム」の著者、手塚治虫氏の最後の作品である「ガラスの地球を救え」で、手塚さんは、私たちに「宇宙からの眼差しをもて」と勧めています。今の私たちへのメッセージが含まれているように思いますので、その一部を紹介します。

「我々の理論は、どうしても人間中心になります」これは、ガモフという学者

の宇宙論から来た言葉ですが、「人間性原理」という考え方があります。われわれの住む地球はじめ宇宙を、すべて人間中心にかんがえるという論法です。この理論によってこそ、自然破壊や資源の食いつぶしを果たしているといつて間違いありません。

生まれながらに、地球という天体を外から眺めながらに育った子供は、（この子供たちとは、3.11の震災を経験した私たちと繋がると思いませんか）その天体に住む何十億という人間を、万物の霊長だとは見ないに違いないと思います。きっと他の無数の生き物と同等に、一介の生物として考えるでしょう。その地球を、乱開発したり荒廃させたりという人間のエゴイズムを、彼らは黙認しないと思うのです。

実際「アメリカの宇宙飛行士たちの多くが、月面から、宇宙から、地球を初めて眺めることによって、いかにそれまでの人生観が変わったかを述べています。科学の最先端にいた彼らが、神を感じたり、伝道者になったりしています。「彼らが暗黒の宇宙にぽっかりと浮かぶ青く輝く地球を見た時、そのかけがいなさに打たれたのではないでしょうか。

大宇宙の孤独に耐えて、ガラスのように壊れやすく、美しい地球が浮かんでいる。戦争の爆弾の火や、緑が後退して砂漠化が進む荒廃ぶりなど、まるでまるで自分が神のように眼下に見えてしまう衝撃。

そして人間のはかなさが手に取るようにわかってしまうに違いないのです。宇宙の果てしない闇の深さに比べ、この水の惑星の何と美しさでしょう。それはも

う、神秘そのものかもしれません。

ひとたび、そんな地球を宇宙から見ることができたなら、とてもそのわずかなく空気や緑、そしてその青い海を汚す気にはなれないはずです。

だから、ぼくは宇宙ステーションや月面で生まれ育った子供たちに期待しているのです。

彼らは、生まれながらに、宇宙での人間の小ささ、力を合わせていかなければ生きられないこと、そして、人間が一番偉いのではないこと、眼下の地球に生きる動物も植物も人間も、みんな同じように生を全うし、子孫を生み続けていく生命体であるのだと、まっすぐに受けとめることができると思います。

きっと彼ら未来人、そして宇宙人でもある子供たちは、新しい地球規模の哲学を携えて、地上の人々に警告を発するでしょう。

その時こそ、やっと人類は宇宙の一員になれるのかもしれません。

私たちは、この震災を経験して、手塚治虫氏が語っている、「宇宙からの眼差し」に似た眼差しを持たざるを得ない立場に立たされました。

先ほど読まれた聖書には、神様は、私たちに「生きよ！」「求めよ！」「探せ！」「門をたたけ！」と言われます。私たち人間のうちに与えられている強い底力を使ってこの震災で私たちが失ったことよりも人間を大事にする質のよいものを再建していきましょう。そうしなければ、この震災で命を捧げた方々に申し訳ありません。皆さんたちの若い力を結集して、新たな東北を作っていきましょう。

どうぞこれから始まる3年間または、6年間で実り多い日々になりますように

お祈りいたします。特に、学院の保護者である聖母マリアさまの祝福が一人ひとりの上に豊かにありますように心からお祈りいたします。

保護者の皆様、お子様のご入学おめでとうございます。桜の聖母学院中学・高等学校にお子様を託してくださいましたご信頼に応えるべく、皆様と協働して誠心誠意つとめてまいります。本日はご入学誠にありがとうございました。